

モーリタニア月例報告
(2025年5月)

2025年6月
在モーリタニア日本国大使館

【内政】

5月14日 アブデル・アジズ元大統領に懲役15年判決

【外政】

5月30日 国際調停院設立協定への署名

5月30日 西サハラ国家評議会議長の当地訪問

【軍事】

5月9日 米軍艦の寄港

【経済】

5月14日 債務管理に関するAU会合における経済・財務大臣付
予算担当大臣演説

5月29日 アフリカ開発銀行総裁選挙(タハ・モーリタニア候補の
選出)

【広報・文化】

5月7日 日本理解促進のための図書寄贈事業(M i F i T T)

【内政】

● アブデル・アジズ元大統領に懲役15年判決

(5月14日付、当地メディア各社)

1 アジズ元大統領に懲役15年の判決

(5月14日付、当地独立系メディア「アル・アフバール」)

(1) 14日、ヌアクショット控訴裁判所の刑事控訴部は、アジズ元大統領に対し懲役15年の判決を言い渡した。判決は裁判長によって読み上げられた。

(2) 裁判所は、同氏が権力の乱用、公的職務の不正使用、犯罪収益の隠匿といった罪を犯したとして有罪とし、これを汚職対策に関する2016年法第014/2016号の第13条、第14条、第17条に基づいて判断した。

2 解説記事

(5月14日付、当地独立系メディア「サハラ・メディア」)

14日、モーリタニア国民は「10年ファイル」に関する判決を注視した。ヌアクショット控訴裁判所の刑事控訴部は、アジズ元大統領を始めとする複数の元高官に対して判決を下した。これは、同国史上でもっとも議論を呼んだ裁判のひとつである。

今回の判決は、2019年末の議会による調査から始まり、予備調査や司法手続きなどを経て、汚職事件を専門に扱う刑事裁判所で審理された後、控訴審に進んだという、数年に亘る法的プロセスの集大成である。

(1) そもそも「10年ファイル」とは？ なぜこれほど注目を集めたのか？

「10年ファイル」とは、2009年から2019年までのアジズ政権下における汚職疑惑をめぐる一連の司法調査を指す、メディアがつけた名称である。この事件は、2019年12月、24人の国会議員が政府の運営における汚職疑惑に関して調査委員会の設置を求めたことに端を発する。疑惑の中心は、エネルギー契約、港湾、不動産、国家資源の管理といった経済分野であった。

(2) この事件はどのようにして議会から司法の場に移ったのか？

2020年2月、国会は正式に調査委員会の設置を承認し、閣僚や関係者の召喚を始めた。そして同年7月、元大統領にも召喚状が送られたが、彼は出頭を拒否した。その後、2020年7月29日に議会は司法省への送致を勧告し、同省が検察に事件を引き継いだ。2020年8月からは経済犯罪対策警察が予備捜査を開始し、アジズ元大統領も複数回召喚されたが、彼は「憲法上の免責」を理由に調書への署名を拒否した。

(3) 正式な裁判はいつ始まり、どのような罪が問われたのか？

2021年3月、予審判事が元大統領及び約10人の元高官に対して汚職関

連の罪を認定し、司法監視下に置くことを命じた。2021年6月には、アジズ元大統領が監視条件に違反したとして収監された。本格的な裁判は2023年1月に始まり、主な罪状は「権力の乱用」「不正蓄財」「資金洗浄」であった。2023年10月には、検察が懲役20年と資産没収を求刑し、元閣僚らにもそれぞれ処罰を求めた。

(4) 裁判所はどのような判決を下したのか？

2023年12月、汚職事件専門の刑事裁判所は、アジズ元大統領に対して懲役5年の実刑判決を言い渡し、公民権の停止及び財産の没収を命じた。一方で、元首相ヤヒヤ・ウルド・ハッドミン氏やモハメド・サーレム・ウルド・ベシール氏など複数の元閣僚は無罪となり、差し押さえられていた資産も返還された。

その他、アフマド・サーレム・ウルド・イブラヒム・ファール氏（元モーリタニア電力公社（SOMELLEC）社長）には懲役2年半と資産没収の判決が下され、他の関係者にも罰金刑が科された。

(5) 事件の現在の進捗状況は？ 裁判は終わったのか？

14日、ヌアクショットの控訴裁判所刑事部は「10年ファイル」に関する判決を下した。控訴審では、アジズ元大統領に対して懲役15年の実刑判決が言い渡された。また、ファール元SOMELLEC社長と、元大統領の娘婿モハメド・ウルド・ムサブーにも、それぞれ懲役2年の判決が下された。一方で、モハメド・ウルド・ダーフ氏（元ヌアディブ経済特区総裁）はすべての罪状について無罪となった。同じ判決の中で、アジズ元大統領の息子が設立した「ラフマ財団」の解散と、同団体の資産没収も命じられた。これにより、この事件は判決が確定し、法的に一区切りを迎えたことになる。

3 SNSの反応

（当地独立系メディア「サハラ・メディア」）

（1）14日の夕方、モーリタニアで最も物議を醸した司法案件の一つである「10年ファイル」に幕が下ろされた。特に、モーリタニア独立後初の民選大統領であるアジズ元大統領が汚職の罪に問われたことで、国民の関心が高まった。

（2）この案件は、2019年に議会が調査委員会を設置して調査を開始して以降、世論の注目を集めてきた。その後、検察に引き継がれ、最終的には司法に委ねられた。裁判の公判はSNSやメディアでも大きく取り上げられ、国民の間で話題となっていた。

（3）そして約6年にわたる捜査を経て、本日、控訴裁判所が本件に関する判決を言い渡し、アジズ元大統領に懲役15年の実刑判決を下した。

(4) 裁判所は、同氏が権力乱用、公職の濫用、犯罪収益の隠匿といった罪を犯したと認定。これらは、汚職対策に関する2016年法第014/2016号の第13条、第14条、第17条に基づいている。

(5) この判決に対し、モーリタニア国民はSNS、特にFacebook上で大きな反応を示した。

(6) ある活動家は、この判決は、民衆を虐げ、圧政を敷いた者の当然の結末だと投稿、「15年では軽すぎる。彼はウギア（モーリタニア通貨）だけでなく、ドルやユーロでも巨額を略奪し、財産を国外に逃し、宮殿を建て、豪華な車を買った」と強く批判した。

(7) ブロガーのイマード・サーレク・ムハンマド氏は、「この判決は貧しい人々にとって人生で最も美しい日だ」と投稿。10年間にわたって国民の財産を奪い続けた者にふさわしい「悲惨な終わり」だと述べた。

(8) しかし、アジズ元大統領の支持者の一人は、控訴裁判所の判決に対し「不当で抑圧的」と非難。「これは、かつて大統領の側近だった者たちによる政治的報復だ」と批判した。

(9) さらに、ブロガーのムハンマド・イスラム氏も判決に不満を表明し、「この判決は痛ましい。正義に異を唱えるわけではないが、会計責任が中傷や政治的報復の手段と化すことには断固反対だ」と述べた。

【外政】

●国際調停院設立協定への署名

(5月30日付、当地政府系メディアAMI)

1 メルズーグ外相は30日、香港で開催された国際調停院設立協定の署名式に出席した。

2 このイニシアチブは、数年前、中国によって提唱され、各国間の紛争を解決し、緊張や紛争を回避するための最も重要な平和的手段としての調停メカニズムの活性化を目指している。

3 式典には、国際社会が一致して受け入れる国連憲章の原則を完全に尊重するこのイニシアチブに署名するため、世界中から多くの外交の責任者が参加した。

●西サハラ国家評議会議長の当地訪問

(30日付当地政府系メディアAMI他)

1 5月30日付政府系メディアAMI

「大統領、サハラ・アラブ民主共和国大統領からのメッセージ文書を受け取る」

(1) 5月30日、ガズワニ大統領は、ヌアクショットの大統領官邸で、サラマ・西サハラ国家評議会議長を迎え、同議長から、ガリ・サハラ・アラブ民主共和国大統領からの書簡を受け取った。

(2) 会談後、同国家評議会議長はAMIに対し、自身と随行した代表団は、ガズワニ大統領と会談し、ガリ大統領からの書簡を手渡した、と述べた。

さらに、ガズワニ大統領と、両国の共通関心事、両国間の強固な絆を強化し、モーリタニアとサハラ・アラブ民主共和国間の協力、協議、連携を強化する方法について協議したと付言した。

同議長は、ガズワニ大統領から、ガリ大統領に友好と友愛のメッセージを伝えるよう依頼されたと述べ、この会談は、モーリタニアのタハ氏がアフリカ開発銀行総裁に選出されたことにつき、モーリタニア大統領及び国民に対して祝意を表する良い機会となったと付け加えた。

(3) 会談には、シュルーカ大統領府官房長大臣、エスマン大統領府顧問大臣、ディア対外・治安考察庁長官が同席した。

西サハラ代表団は、ボウバ大統領府大臣顧問、ディエ西サハラ軍副参謀長、マルー安全保障・文書局長、アリ西サハラ軍参謀部メンバーが参加した。

2 6月1日付独立系メディアCRIDEM

「ヌアクショットの西サハラ・コミュニティが、モーリタニアを訪問中のサハラ・アラブ民主共和国代表団を迎える」

(1) 在モーリタニアの西サハラ・コミュニティは1日、ガリ大統領からガズワニ・モーリタニア大統領宛てのメッセージを携えたサラマ国家評議会議長率いる西サハラ代表団を迎えた。

(2) この会合は、モーリタニアの西サハラ・コミュニティに西サハラの大義の最新の進展を伝える機会となった。

(3) 国家評議会議長は、西サハラの人々の闘争の正当性は、その大義の適切さ、自決と独立の権利の国際的認知、そして西サハラでの住民投票の実施を目的とした国連ミッションの存在に由来すると述べた。同議長は、モーリタニアの政党や市民社会との継続的なコミュニケーションを維持し、西サハラの人々が闘っている正当な大義に対する彼らの支持と連帯を動員する上で、コミュニティが果たす役割を強調した。

(4) サラマ国家評議会議長は、ガリ「大統領」特使としてモーリタニアを公式訪問している。同議長は、ヌアクショットの大統領官邸で、ガズワニ・モーリタニア大統領から公式に迎えられた。

【軍事】

●米軍艦の寄港

(5月9日、当地独立系メディア「アル・アフバル」)

1 米海軍の軍艦USSマウント・ホイットニーがモーリタニアに寄港した。米国大使館によれば、今回の寄港は、モーリタニアの沿岸防衛能力及び領域主権の強化を目的とした任務の一環だという。

2 この艦はブルーリッジ級の指揮・統制艦であり、乗組員及び指揮チームは、当地米国大使館のジョン・T・アイス臨時代理大使によって歓迎された。

3 また、米軍の関係者は、モーリタニア軍参謀次長であるムハンマド・ムフタール・マニ少将とも会談を行った。

4 米国大使館は、この軍艦の寄港は、米国がモーリタニアとの二国間安全保障協力に取り組む姿勢を示すものであり、我々が海上の安全確保、共通の安全保障上の課題への対応、そして海上交易の安全を通じた経済的繁栄の促進に向けて、重要な連携関係を築いていることを示していると強調した。

5 なお、マウント・ホイットニーはここ数週間でチュニジアにも寄港し、34メートル級のアイランド型沿岸警備艇2隻を引き渡したほかリビアも訪問している。

【経済】

●債務管理に関するAU会合における経済・財務大臣付予算担当大臣演説

(5月14日付、当地政府系メディアAMI)

5月12日から14日にトーゴ・ロメにて開催された債務管理に関するAU会合におけるンゲノレ経済・財務大臣付予算担当大臣の演説を掲載したところ、概要以下のとおり。

1 本日、この重要なアフリカにおける公的債務管理に関する会議において、モーリタニアを代表して発言する機会をいただき光栄である。まず第一に、AUに対しこの重大なイベントの開催に心から感謝する。これは、公共財務の持続可能性及びアフリカ大陸の債務の持続可能性を確保しつつ各国の経済発展を推進し、国民に共有された繁栄を確保するという我々の共同コミットメントを証明するものである。

2 (1) 債務問題は、現在我々の国々の経済的懸念の核心にある。アフリカは過去数十年において、インフラのための出資、人的能力の強化、最も脆弱な層の社会的保護確保のため多大な努力をしてきた。これらの投資は、必要不可欠であったものの、複数の国において債務水準の著しい上昇を招いた。

(2) 現在の世界情勢は、重大な影響を及ぼす不確実性に特徴付けられ、国際的な連帯がこれまで以上に必要とされており、各国は責任を果たし、債務の持続可能性を確保し、経済的強靱性を強化するため持続的な国内努力を講じる必要がある。

3 (1) この精神に基づき、モーリタニアの経験を共有したい。モーリタニアは過去10年間、開発資金調達に必要な余地を維持しつつ債務の持続可能性を確保するために一連の改革を実施してきた。

(2) 具体的には、公的債務管理を担当する機関の制度的基盤を強化することによる債務管理における透明性とガバナンスの確保、我々の持続可能な成長目標と一致した中期債務戦略の採用、公的債務に関する統計報告書の四半期毎の公表を行った。また、特にクウェートとサウジアラビアとの大規模な債務再編は、我が国が中程度の過剰債務状態に分類されることに大きく寄与し、現在の債務比率は46.4%である。同時に、予算管理の近代化、税制改革、ビジネス環境の改善、そして農業、漁業、エネルギー及び工業分野における分野別戦略の策定等、我が国は大規模な構造改革を実施してきた。

(3) これらの取組みにより、公的債務比率の低下、予算の余地の拡大、技術的及び財政的パートナーの信頼強化が実現した。

4 (1) 我々の大陸の債務問題に対処するためには、個々の努力だけでは不十分である。AUは、パートナーの支持を得て、G20の共通枠組みを含む我々の債務義務の適切な再交渉、革新的な譲許的・準譲許的融資へのアクセス拡大及び再融資リスクを回避するための長期国債を優先した国内市場の発展という具体的なイニシアティブの実施を継続することが不可欠である。

(2) 課題は重大である。我々の国家が単に債務の返済を保証するだけでなく、国民により良い未来を保証するための十分な手段を整備することが求められている。

(3) アフリカは未開発の潜在力と勤勉な若者に恵まれており、債務の健全かつ厳格な管理は、これらの資源を包括的で持続可能な開発の機会へと変化させるだろう。

(4) 汎アフリカ連帯の精神のもと、そして我々の団結が最大の力であるとの確信を持って、モーリタニアはこの共同の努力に積極的に貢献する決意を改め

て表明する。

●アフリカ開発銀行総裁選挙（タハ・モーリタニア候補の選出）

（5月29日付、当地政府系メディアAMI他）

1 モーリタニアのタハ候補が次期アフリカ開発銀行総裁に選出

（1）モーリタニアの候補者、シディ・ウルド・タハ氏が、コートジボワールのアビジャンで開催されたアフリカ開発銀行の年次総会において、総裁に選出された。

（2）タハ氏は、同銀行の財務大臣、経済大臣及び中央銀行総裁からなる81（地域及び地域外の）加盟国による理事会によって選出された。理事会は、同銀行グループの最高意思決定機関である。

2 大統領との電話会談で、アフリカ開発銀行総裁に選出されたシディ・ウルド・タハ氏は、透明性、廉潔、責任へのコミットメントを強調

（1）アフリカ開発銀行の我々の国の候補者であるシディ・ウルド・タハ氏は、総裁選での勝利が発表されると直ちに電話会談を行い、選挙期間を通じて絶え間ない戦略的かつ決定的な支援を提供したガズワニ大統領に深謝の気持ちを伝えた。

（2）タハ氏は、アフリカ諸国の経済社会開発のために、廉潔、効率的かつ責任を持ってアフリカ開発銀行を率いていくというコミットメントを大統領に約束した。

（3）我が国の候補者であるタハ氏が、29日、アフリカ開発銀行総裁に、競合候補者を大差で破って選出された。

（4）ガズワニ大統領は、選挙期間中、我が国の候補者に投票するよう、アフリカの指導者や国際的な指導者たちとの接触や会合を重ね、3回にわたる選挙の投票にも直接関与し、関係各国首脳と連絡を取りながら、候補者の勝利を確保するために尽力した。

3 大統領、アフリカ開発銀行への我々の候補者に対する支援について各国首脳に感謝

（1）ガズワニ大統領は、アフリカ開発銀行総裁選挙におけるモーリタニアの候補者に対する信頼と決定的な支援について、兄弟国及び友好国の首脳たちに心からの感謝を表明した。

これは、29日、大統領のXの投稿で明らかになった。

（2）「モーリタニアのアフリカ開発銀行総裁候補の選出において、兄弟国及び友好国の首脳の信頼と決定的な支援に感謝する。各候補者は卓越した能力が

あり、今回の選挙はアフリカ大陸の誇りとなった。タハ氏の成功を祈念するとともに、彼が、アフリカのアジェンダ2063に反映されたような、創設者たちの希望を実現する、アフリカの人々の課題と願望に応え、アフリカの協力、団結、そして包括的かつ持続可能な開発を推進するものとなることを願っている。」

4 大統領、アフリカ開発銀行加盟国の首脳たちに謝意を表明

(1) ガズワニ大統領は、アフリカ開発銀行加盟国の首脳全員に対し、同銀行総裁候補であるモーリタニアのシディ・ウルド・タハ氏への信頼と連帯の意を表したことに對して謝意を表明した、と大統領府報道部が発表した。

(2) 「本日、我が国の候補者であるタハ氏がアフリカ開発銀行総裁に選出されたことを受け、ガズワニ大統領は、AfDB加盟国の首脳の皆様に対し、モーリタニアの候補者に寄せていただいた信頼と連帯への謝意を表明する。

この幅広い支持は、モーリタニアとアフリカ及び国際的パートナー諸国との兄弟愛、友情、尊敬及び協力の絆の強さを示すものであり、また、地域及び国際レベルにおける我々の外交の積極的かつ効果的な役割が評価された結果でもある。さらに、アフリカ大陸の統一とその包括的かつ持続可能な開発に向けた大統領のコミットメントに対する信頼と評価も表している。

大統領は、タハ氏の開発、金融及び協力分野における経歴を踏まえ、同候補は我が国の支持に値すると考えている。

これらの資質は、AfDBのような戦略的機関の長として、同氏を自然かつ包摂的で信頼に値する人物として選択する理由となっている。

この文脈において、大統領は、タハ氏の輝かしい当選を心からお祝いするとともに、モーリタニア国民が、アフリカ大陸の未来のために、このような国際的な要職に就くことを誇らしく、光榮に思うと述べた。

この機会を利用して、大統領は、選挙戦を通じて、優れた動員力、完璧な調整力、そして集団としてのコミットメントを発揮した候補者の選挙陣営の素晴らしい働きを称賛した。

選挙直後のタハ氏とガズワニ大統領との電話会談で、タハ氏は選挙プロセスを通じて受けた堅固かつ戦略的、そして決定的な支援に感謝の意を表し、アフリカ諸国の経済社会開発のために、廉潔、効率及び責任を持ってアフリカ開発銀行を率いていくというコミットメントを改めて表明した。」

5 経済大臣：大統領の努力と英知が、モーリタニアのアフリカ開発銀行総裁選での歴史的な勝利につながった

(1) モーリタニアがアフリカ開発銀行総裁に選出されたことは、モーリタニ

アの外交の活力と、アフリカ及びこの銀行に資本を持つ他の意思決定をできる首都において我が国が享受している高い評価を証明する、歴史的かつ前例のない成果だ、とブー経済・財務大臣は述べた。

(2) モーリタニアのタハ氏が総裁に選出された後、同大臣は声明の中で、この勝利は、数か月にわたり選挙運動を直接監督し、最高レベルに引き上げて今日の成功につなげたガズワニ大統領の努力と英知の成果であると付け加えた。

(3) 同大臣は、ガズワニ大統領は、この決定を得るために主要各国首都と緊密に連絡を取り、関係各国から決定的な決定と指示を引き出し、我が国の輝かしい勝利につながったと付け加えた。

(4) 経済・財務大臣は、「我々の立候補以来、我々を信頼し、さまざまな段階において支援、協力、支援をしてくれた」として、ワタラ・コートジボワール大統領及び同国政府に対し、モーリタニアの候補者に対する絶え間ない支援に謝意を表した。

(5) また、モーリタニア政府を代表して、モーリタニアを支援し、その候補者を信頼したすべての国々に感謝の意を表した。

6 アフリカ開発銀行グループ会長が、モーリタニアの勝利を受けて大統領に謝意を表明

(1) アフリカ開発銀行の次期総裁に選出されたタハ氏は、モーリタニアがアフリカ開発銀行総裁職に就くために尽力したガズワニ大統領に心からの感謝と謝意を表明した。

(2) 当選発表後の演説で、タハ氏は、アフリカが自分に寄せた信頼に謝意を表した。また、モーリタニア国民に対し、選挙キャンペーン中に示された連帯の意に感謝し、特に「最初から最後まで素晴らしい仕事をした」選挙陣営、そして何らかの形で彼の立候補を支援したすべての人々に謝意を表した。

(3) 以下は、新総裁が当選発表時に述べた演説である。

「この特別な瞬間に、私は謙虚さと責任感を胸に、皆様にお話させていただく。まず、私に信頼を寄せてくださったアフリカに感謝申し上げる。

理事の皆様、この信頼とそれに伴う責任と義務を深く認識しており、感謝申し上げます。特に、私の国、そしてガズワニ大統領に感謝申し上げます。大統領は私の立候補を支持し、今回の成果に至るまで、たゆまぬ努力を続けてきた。私の選挙運動中に連帯を示したモーリタニアの兄弟姉妹、そしてアフリカの兄弟姉妹の皆さんにも、心から感謝する。

また、最初から最後まで素晴らしい仕事をしてくれた私の選挙陣営の皆さんにも、特に感謝の意を表したい。

この場では、その名前をすべて挙げるができないが、直接・間接的に私

の立候補を支援して下さったすべての方々に、心から感謝する。」

【広報・文化】

● 5月7日、モーリタニア技術革新・研修・技術移転研究所（M i F i T T）への日本理解促進のための図書寄贈事業における図書寄贈式を行った。

